

ばってん・うーまん

BATTEEN・U-MAN

2003年10月31日発行 NO.235

<事務局>

〒

津田尚美 方

TEL

<編集> 池田玲子

逐次刊行物

4 10.15

国立女性教育会館
女性教育情報センター

これは真〜「女のノート3年」日記帳

おんなの生き方に役立つことを願って作りました。9冊目になります。

この3年間、あなたの人生は順調でしたか？冒険でしたか？それとも何かハプニングが？このノートのロゴマークの魔女は、昔、自己主張の強い女として葬り去られた女たちのしるし。

何があろうもたじろぐことなく、またこのノートに3年間の人生をお綴りください。

9月1日

夏の終わり… 秋のはじめ… 「女のノート3年」(2004-2006)の発売です。

定価 一冊 1600円 好文堂、石丸文行堂 ほか 下記の事務局でお求め下さい。

送料込みで1800円

払込口座番号 0-1800-4-3413 加入者名 ばってん・うーまんの会

「ご依頼人」欄に住所、氏名、電話番号、冊数を振込用紙に書いてください。

プレゼントにもどうぞ。いつも心にかかるあの人へ。いい人生を共に生きたい友人へ。



〒

ばってん・うーまんの会 事務局 津田尚美

TEL・FAX 共

明らかに時代遅れ！

ジェンダー・フリー教育推進

鹿児島県議会委「

鹿児島県議会文教商工観光労働委員会は2日、市民グループが提出した「ジェンダー（社会的・文化的な性差）の改善・解消をはかるための教育を求める陳情」を賛成少数で不採択にした。7日の最終本会議で不採択となる見込み。県議会は7月、「県内の幼稚園、小、中学、高校でジェンダー・フリー教育を行わないよう求める陳情」を賛成多数で採択しており、事実上2議会連続でジェンダー・フリー教育の推進を否定した。国が男女共同参画を推進している中で議論を呼びそうだ。(1/3 毎日)

【内田久光】

ジェンダー・フリー教育というのは今の「男女共同参画社会」にむけて子どもたちを性別で区分けしない教育を進めていこうということです。＜セックス・フリーの教育＞ではないのです。

日本の学校では教科こそ戦後は男女が同じ教室で同じ教科書でもって教育されるようになりましたが日々の学校生活は男女が区分けされ、「女子は、男子は」で行動し、評価も行われています。日本ではこれがことのほかひどく名簿ですら性別に分けられ当然の如く男子を先に位置付けているのでこれに一体どのような教育効果があるのか国際社会でも批判されています。もし、先生たちの利便性だけで区分けや男子優先の名簿が使われているのならばそれは問題でしょう。男女共同参画社会がこれからの社会のあり方だと政府が法律を作ったわけですからそれに沿った学校の体制づくりを考えるべきです。

さて、表記の鹿児島県議会委もそうですが、このところ妙にジェンダー・フリー教育に対して権力を振りかざしてのバックラッシュが多くなりました。新潟県の茨曾根小学校長は県の条例やプランの中には使われていないこの用語を多用し「校長室だより」であたかも危険思想であるかのような取り上げ方をしています。いったい、どこで仕入れてきたものかこちらこそ聞きたいくらいです。社会の流れに逆行している一連の動きに対しては、気付いたところからの抗議の声はありますが国・県や市の参画担当部署はもっとしっかり指導すべきでしょう。

長崎くんち

「慣習」破り

見事な演技

史上初の女性根曳（ねびき）、山下結佳さん（一九七〇年）が八坂町の川船の先頭に立ち、踊り馬場に姿を現すと、会場中の視線が彼女に集まった。根曳は男性だけという慣習を打ち破って、いよいよ本番。山下さんがどんな演技を見せるか、観衆はかたずきのんで見守った。

八坂町の川船は、ほかの船と違い三つ車。根曳は軽快に回す。「トッ

プ」と呼ばれる花形の根

曳が四人いて、山下さん

はその一人。船が回るた

びに一人ずつへさきにしがみつ

き、勢いよく宙を舞った。

(1978年長崎)



長崎は

時代を跳んだ！

慣習を破ったことで心ないやじも飛ぶ中、山下さんは力強いジャンプを披露。スピード感あふれる船回しに負けじと、ひととき高く足を跳ね上げた姿に、やじをかき消す大歓声。観衆から「よう飛んだ」と大きな拍手が送られた。山下さんは「女性初というプレッシャーに負けたくなかった。練習通りの演技ができた」と語った。

山口県宇部市、千葉県における参画条例策定過程における反動的な動きや、鹿児島県、新潟県における議会委や学校長における性別区分け教育の肯定、その他福岡市における条例策定にかかわる不穏な動きの中で、政府がせっかく作った「男女共同参画社会基本法」の精神に逆行する動きが伝えられる今日、長崎人は全国から集まった観客の前で、大きく時代を跳んだ。神事への奉納出し物に320年余の「固定概念」を覆した勇氣は、そのことを認めた町の衆とそれに応えた山下さんと共に讃えられるものといえよう。長崎市は、男女共同参画宣言都市であり、参画条例も策定し、女性センターも持っているが、参画社会作りは市民1人1人の胸のうちにあることを実感できた出来事であった。

美しきマオリ伝説に導かれたある少女の物語

映画「クジラの島の少女」公開へ

マオリの世界には男女の役割と行動をはっきり区別し、男の領域には女を入れないとする一面があります。映画では、しきたりにこだわる祖父コロと、内に備わった族長としての資質に導かれるままに動く少女パイケアの激しい衝突が切なく描かれています。

衰退していくマオリの伝統文化にあせりを感じている族長コロ、でもその頭の中は「族長は男であるべき、女は神聖な学校を汚す」というジェンダーに占められ、孫娘の才能に気付く余裕すらないのです。これは現在の日本社会にも通じるものがあります。そんなある日、聖なる存在と考えられているクジラがおびたしく海岸に打ち上げられ……という内容ですが、伝統の継承は男だけに与えられた特権なのか、共に社会を築いていくために女はどう行動すればよいのかなどの示唆も与えてくれるのではないのでしょうか。

ニュージーランド、マオリの神話。
伝説の勇者の魂を受けつぐ、女の子が誕生。



原作者「ウイティ・イヒマエラ」は意識的に少女を主役に選んだと言います。日ごろ自分の娘たちから、「どうしてどの映画も男がヒーローで、女は何も出来ないの？」とたずねられていたからだといいます。監督・脚本はニュージーランド出身の新進女性監督、ニキ・カーロ。世界の映画祭で〈観客賞〉を独占しました。

(この映画は長崎市のセントラル劇場で公開予定になっています。日程未定)